

第2回スポーツ推進審議会における委員意見要旨

◆北海道の人口減少に関する意見

- (北海道医療大 笠師委員)
- ◆ 北海道の中で、**体育施設**の状況をアクセスも含めて、ネットワークというかたちで発信できるとよい。
(千歳市教育長 佐々木委員)
 - ◆ **人口自体が減っていく**ことはある程度仕方がないことであるが、**その中でスポーツに関わっていく人達の割合を増やすことが大事**。
(レクリエーション協会 星委員)
 - ◆ **いきなり競技スポーツに関わるのではなく、体を動かすことが楽しいということがわかってくることから始めることが大事**。
(フットサルトップリーグ 小野寺委員)
 - ◆ **スポーツに関わる機会を増やすということに関し、北海道スポーツみらい会議は非常に明るい材料**。

■子どものスポーツまたはスポーツの環境（場）に関する意見

- (北海道中体連 中山委員)
- **部活動改革に関しては、クラブチームの仕組みが整わないスポーツは、学校体育への依存度が高く、種目ごとにいろいろな取組の方向性を検討がなされているところ**。
(千歳市教育長 佐々木委員)
 - **子どもたちが取組やすい競技を取り入れるかたちで、すそ野を広げていくことも大事**。
(和寒町スポーツ協会 渡邊委員)
 - **大人数での競技スポーツが単独市町村ではできなくなり、少しずつ個人競技に移行している現実がある**。
(標津町教育長 山崎委員)
 - **子ども達の体力水準が低いため、幼少期からスポーツに接することが重要**。
(北海道スケート連盟 千葉委員)
 - **指導者の確保に加え、質の確保も重要**。
 - **競技スポーツの水準が上がり、幼少期から単一種目になりがちのため、誰もが気軽にスポーツをできる環境が重要**。
(北翔大学 増山委員)
 - **競技主体で考えていくと、現在、スポーツに親しんでいない子どもたちは、自主的に参加することが進まないと考えるので、気軽に、目標とするレベルも楽しみからの多様な選択肢があることが大事**。また、自主的に運動ができる場の開放も必要。
(北海道中体連 中山委員)
 - **部活動改革の検討の中では、来年の中学生の活動に空白を作らないということが一番重要なこと**。
全道の中学部活動の3割が合同チームとして、単独の学校では成り立たない状況。
町ごとの拠点校方式あるいは、複数の部活動の合同チームが参画できる大会のあり方を検討中。
(北海道サッカー協会 石井委員)
 - **女子サッカークラブに関しては、小学校までは増えてきたが、中学校となると指導者やクラブがなくて、やめてしまうといった現象が起っており、底辺を広げていくことが今後必要**。
 - **各競技が協力し合える体制を作り、競技の垣根を越えて、子ども達にアプローチしていくことが重要**。

◇障がい者スポーツに関する意見

- (和寒町スポーツ協会 渡邊委員)
- ◇ **障がい者スポーツに関しては、定着した人を逃さないということも大事**。
(北海道障がい者スポーツ協会 長田委員)
 - ◇ **障がい者スポーツに関する問題としては、閉じこもりがちの人を外にまず出すこと、競技を続ける人を継続してフォローしていくことのできる体制づくり、健常者と高齢者などいろいろな人たちと一緒にスポーツができる機会を増やすこと**。
(北翔大学 増山委員)
 - ◇ **障がい者スポーツを始めることはハードルが高いため、アダプテッドスポーツなど、障がいの有無に関わらず、また年齢や性別に関わらず誰でも参加できる内容を学校教育の中に取り込んだり、健常者も障がい者も一緒にできるようなスポーツに機会により、多くの人に参加できるようなスポーツを広めていくことが大事**。また、障がい者種別による配慮も必要。
 - ◇ **障がいのある生徒なども卒業後のスポーツがとぎれてしまうといった接続の問題もあり、地域のスポーツ活動に期待**。

○その他の意見

- (北海道スケート連盟 千葉委員)
- **セカンドキャリアの形成は、スポーツ底辺の拡大には重要**。
(フットサルトップリーグ 小野寺委員)
 - **クラブチームが地域に貢献する場合、雇用の問題を受け入れつつ、学校現場に入っていけるような体制がないと現実には難しい**。
(北海道医療大 笠師委員)
 - **女性アスリートの支援体制を構築してほしい**。
(標津町教育長 山崎委員)
 - **北海道ならではの地域の活性化の題目には、ボールパークだけではマッチングしない**。
(北海道サッカー協会 石井委員)
 - **骨子案の地域の活性化については、スタジアムだけでなく、各地域も取り込んだ活性化の要素が必要**。
(北翔大学 増山委員)
 - **骨子案のめざす姿「持続可能な社会の実現」については、5年間で具体的に何をもって達成するのが見えないため、誰が見ても共通のイメージが持てる言葉で置き換えられるとよいのではないか**。